日本詩人クラブ例会・イベント　2006年１月

2006 平成18年 新年会

日時　１月14日(土)　午後３時より

場所　神楽坂エミール(教育会館)　TEL 03(3260)3251

地下鉄東西線「神楽坂」下車　赤城神社隣り

2005年　新入会員・会友の挨拶

会長・理事長を囲んで

会長の年頭挨拶の中で、2006年は日本詩人クラブにとって歴史的な大きな転換点になるだろうことが話されました。

新年会出席者も100名を越え、関西・長野からもおいでいただきました。

日本詩人クラブ例会・イベント　2006年２月

2006 平成18年　２月　例会

日時　２月11日(土)　午後２時より

場所　神楽坂エミール(教育会館)　TEL 03(3260)3251

地下鉄東西線「神楽坂」下車　赤城神社隣り

会員による詩の朗読と小スピーチ

菊池敏子氏

溝口 章氏

菊地貞三氏

講演　日本詩人クラブ創設期の詩人たち　——川路柳虹——　　講師：天彦五男氏

川路柳虹自筆の色紙を手に柳虹の評価の低さを嘆く　天彦五男氏

日本詩人クラブ法人化フォーラム

講師・阿部 誠氏（東京都行政書士会理事）と中村不二夫会長

銀行口座が個人名でしか開けない、文部科学省と交渉しても取り合ってくれない、マスコミの対応が鈍いなどの日本詩人クラブにとっての不都合は任意団体であることに起因し、社会的な認知を受けるには法人格を持つ必要があることが講師により易しく詳しく説明されました。

質疑応答の中では、それでも理解できないという声もありましたが、フロアーの中から「ホームレスが住民登録するようなもの」という名解釈が出て、大きな拍手に包まれました。

会場風景

満員の会場で、質問も多く出て、有意義なフォーラムとなり、「有限責任中間法人・日本詩人クラブ」の記念すべき一歩を踏み出しました。

2006 平成18年 ２月　オンライン現代詩作品研究会

日時　２月4日(土)　午前10時より　５日(土)　午前10時

メーリングリストを使って80名のメンバーでスタートしました。作品提出者18名、発言者23名、総発言数120件に上がり、イギリス滞在中の会員も参加し、地域を越えた研究会となりました。

日本詩人クラブ例会・イベント　2006年３月

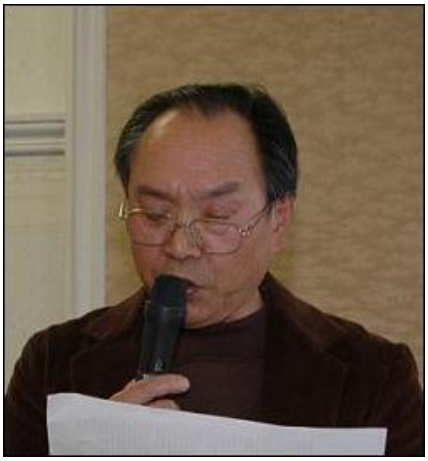
2006 平成18年 ３月　例会

日時　３月11日(土)　午後２時より

場所　神楽坂エミール（教育会館）TEL 03(3260)3251

地下鉄東西線「神楽坂駅」下車　赤城神社隣

会員による詩の朗読と小スピーチ



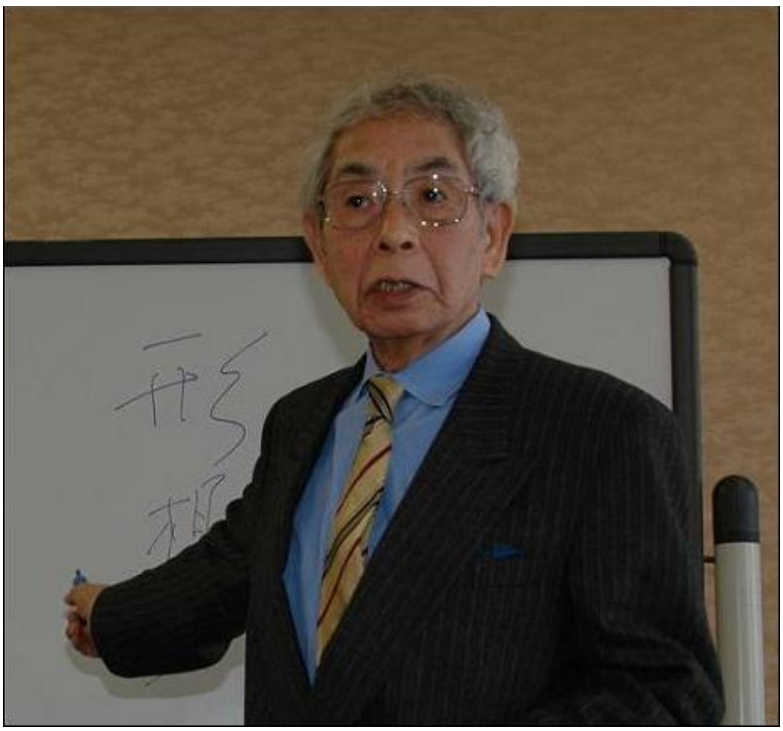
石黒 忠氏

たけやま渓子氏

山丘桂子氏

講演　日本詩人クラブ創設期の詩人たち　――高村光太郎――　　講師：寺田 弘氏

９２歳とは思えないお元気さで高村光太郎との思い出を語る、
元日本詩人クラブ会長・寺田 弘氏



白板を使いながら講演する原子朗氏

参加者は33名でした

休憩時間にもフロアーの質問に答える原子朗氏

講演の関連資料として、表装した高村光太郎の手紙を説明する野澤俊雄氏。
　＊この手紙は７月３１日から東京・銀座「地球堂ギャラリー」で開催される日本詩人クラブ詩書画展に出品される予定です。

　講演　「詩・音楽・神」　　講師：山本 護氏（日本キリスト教教団牧師）
《当日のパンフレットから》
　１．＜序＞
　自然とは何とか芸術とは何とか、事柄を一般化するなら、語ることは易しい。しかし、その事柄に深く関わりを持ち、具体的なこととして語ることはとても難しい。たとえば「あなたの詩とは何か」と問われたら、皆さんはどのように、答えることができるでしょうか。
　２．～６．略
　７．結び
　　詩人たちに期待すること。版画家ケーテ・コルヴイッツは語っています。「ただ音楽と詩だけが最後のものを表現できる。絵画からはわずかなものしかそこに加えられない。」
　　【演奏】祈りＮｏ．３（山本護２００４年作品）

　［山本護（やまもと　まもる）　プロフィール］
　１９５７年東京生まれ。チェロと音楽理論を学び、現代の新しい技法は独学して様々な実験的作品を書いた。同時にまた、中世・ルネサンスなどの古い音楽、世界各地の伝統音楽も研究し、近親性のないいろいろな楽器の演奏法も学んだ。
　また日本基督教団の牧師でもあり、１９９２年から八ヶ岳周辺で開拓伝道に従事。現場での経験を積み重ねながら、日本の、この地に適した柔らかい神学を探し求めている。

講演の合間に自ら作曲した、版画家ケーテ・コルヴイッツに捧げる頌曲「祈り」をチェロ演奏する山本護氏。

素晴らしい講演・演奏に拍手する会場の皆さん。　参加者は８４名でした。

2006 平成18年　３月　詩論研究会

日時　３月４日(土)　午後２時より
場所　神楽坂エミール(教育会館)　TEL 03(3260)3251
　　地下鉄東西線「神楽坂」下車　赤城神社隣り

「私離れの詩とことば」　講師：原　子朗氏　　コーディネーター：川中子義勝氏
《当日のパンフレットから》
今年度の現代詩研究会は、「抒情・造形・批評　詩的現実を目指して」というテーマのもと、詩作の営みを念頭に置いて、そこでの思孝や表現の問題を具体的に探っています。
今回は原子朗氏を講師に迎え、「私離れの詩とことば」と題してお話を伺います。ご存じのように原氏は、宮澤賢治や大手拓次、中原中也などの研究や講演などで定評のある方です。今回は、詩人論を教養講座的にお話しいただくのではなく、ご専門の修辞論・文体論をふまえて、しかし、わかりやすく、最近の数多い詩集や同人誌等に見られる傾向――たとえば作者の経験や対社会的な感想・批判等の直接的な表現――にも批評を加え、それらが間接的であっても、結局は言語や表現が従属的になり、自立性から遠ざかるのでは？　という問題に触れて、古くは透谷の「想世界と実世界」の二元性から、象徴性の問題まで、できるだけ実例に即してお話しいただく予定です。

講師紹介　　原　子朗（はら　しろう）詩人。評論家。長崎生。大学院中退、フランス・イギリスに留学。文体論専攻。早大、Ｊ．Ｎ．∪（インド国立ネール大）、昭和女子大等の教授を経て、現在大学名誉職、花巻市立宮澤賢治イーハトーブ館長。長編詩『石の賦』で現代詩人賞、『宮澤賢治語彙辞典』で宮澤賢治賞その他を受賞。詩集に『風流について』『幽霊たち』『挨拶』『歎語抄』『空の砂漠』『黙契』『淹歳』『ＯＤＥ　ＴＯ ＳＴＯＮＥ』等。研究書に『文体序説』『文体論者』『文体の軌跡』『修辞学の史的研究』『定本・大手拓次研究』『筆蹟の美学』『宮澤賢治』『宮澤賢治とは誰か』『新宮澤賢治語彙辞典』『筆跡の文化史』等。

2006 平成18年 ４月　３賞贈呈式

日　時　４月８日(土)　午後２時～

場　所　神楽坂エミール（教育会館）TEL 03(3260)3251

地下鉄東西線「神楽坂駅」下車　赤城神社隣

第39回日本詩人クラブ賞
詩集『ゴドー氏の村』
川島　完氏

第16回日本詩人クラブ新人賞
詩集『切通し』
竹内美智代氏

第６回日本詩人クラブ詩界賞
『日本近代象徴詩の研究』
佐藤伸宏氏

受賞者を囲んで
約120名の方にお祝いに駆けつけていただきました。
おめでとうございます。今後の益々のご活躍を祈念いたしております。

2006 平成18年 4月　オンライン現代詩作品研究会

日時　４月１日(土)　午前10時より　２日(日)　午前10時

第２回目のメーリングリストを使っての研究会を行いました。作品提出者19名、発言者19名、総発言数57件に上がり、インド在住の会員も参加し、前回のイギリスからの参加もくわえると、まさにグローバルな研究会となりました。

2006 平成18年 ５月　日本詩人クラブ札幌イベント

日　時　５月27日(土)14：30〜17：00

場　所　北海道立文学館講堂　札幌市中央区中島公園 1-4　TEL 011-511－7655

内　容　講演「現代詩の再生を目指して」－日本の現代詩の現状と課題－

元日本詩人クラブ会長　文教大学名誉教授　石原武氏

「詩人イヴ・ボンヌフォア」－フランスを代表する現代詩人の作品を通して－

早稲田大学名誉教授　清水茂氏

司会の原子修氏と講師の石原武氏、清水茂氏

満員の聴衆　本州からも10名ほどが参加しました

北海道詩人協会創立50周年記念・交流会パーティ　17：30〜　札幌アスペンホテル

北海道詩人協会会長・安英晶氏を囲んで

2006 平成18年 ５月　第57回総会

日　時　５月13日(土)　午後２時30分～

場　所　神楽坂エミール（教育会館）TEL 03(3260)3251

地下鉄東西線「神楽坂駅」下車　赤城神社隣

総会議長団　周田幹雄氏・高島清子氏

議長団の円滑な議事進行もあって、理事会提案の議題は全て原案通り可決されました。最重要議案の法人化もご承認いただき、有限責任中間法人・日本詩人クラブの発足に向け、大きな一歩を踏み出しました。

中村不二夫会長挨拶

日本詩人クラブという理想レストランで、これからも理想のメニューを提案していきたいと話されました。

この１年の経過を報告する北岡淳子理事長

熱心に議論に参加する会員の皆さん。総会出席者は８０名を越えました。

名誉会員に推挙され、お礼を述べる高橋良雄氏

名誉会員は他に石川重俊氏、上野菊江氏が推挙されました。また、永年会員として上田周二氏、笠原三津子氏、河合智恵子氏、北岡善寿氏、木村徳兵衛氏、佐藤 敏氏、鈴木 満氏、進 一男氏、谷口 謙氏、星野徹氏が顕彰され、ご出席の上田・笠原・北岡・佐藤・鈴木の各氏よりご挨拶をいただきました。

５時過ぎからは隣の部屋で懇親会が開かれ、石川県・愛知県からの参加もあり、楽しい時間を

過ごしました。
　写真は司会の秋山公哉氏と谷口ちかえ氏。お疲れさまでした。

永年会員の北岡善寿氏を囲んで

2006 平成18年 5月　地区会場現代詩研究会

日　時　５月６日(土)　午後２時～17時
場　所　千葉県教育会館608号室
　　千葉市中央区中央4-13-10　電話043-227-6141
　　千葉都市モノレール「県庁前」下車、徒歩3分
　　京成千葉線「千葉中央」下車、徒歩6分

講　演「私の詩体験」　久宗睦子氏
　　「詩のたのしみ」筧　槇二氏

日本詩人クラブ例会・イベント　2006年６月

2006 平成18年 ６月　第15回　日本詩人クラブ関西大会　担当理事：島田陽子
日時　６月10日(土)　14時00分～17時20分
会場　トーコーシティホテル梅田 大阪市北区南森町1丁目3－19　TEL 06-6363-1201
内容
・講演　日本詩人クラブ創設期の関西詩人をしのぶ　「富田砕花について」安水稔和氏、「児玉実用について」薬師川虹一氏
・対談「私にとっての喜志邦三」

対談する水谷なりこ氏と横田英子氏

・今年度日本詩人クラブ賞・新人賞受賞者の詩の朗読　第39回日本詩人クラブ賞・川島完氏、第16回日本詩人クラブ新人賞・竹内美智代氏
・ハーモニカ演奏　もり・けん氏　喜志邦三作詩曲3曲と童謡ほか
・自作詩朗読　原子修　作田教子　硲杏子　秋山公哉　千葉龍　山本倫子　外村文象　清水恵子　なんば・みちこ　南邦和の各氏
懇親会

懇親会でももり・けん氏のハーモニカに合せて合唱

参加者は134名と、大盛会でした。大会実行委員の皆様は次の諸氏。お世話になりました、ありがとうございました。
島田陽子　金掘則夫　神田さよ　佐藤勝太　志賀英夫　下村和子　外付文象　永井ますみ　名古きよえ　原圭治　水谷なりこ　村田辰夫　毛利真佐樹　薬師川虹一　横田英子

2006 平成18年 6月　オンライン現代詩作品研究会　担当理事：村山精二
日　時　6月3日(土)10：00〜4日(日)10：00
登録者のみで日本詩人クラブメーリングリスト上で開催
提出作品：「棚田の鶴」佐藤勝太／「幻像I」斎藤幸雄／「太陽を追って 」直原弘道／「ポックリさま」くらもち さぶろう／「黄色い部屋（ゴッホ断章）」田中健太郎／「母危篤」蒼わたる／「散乱する」佐藤 孝／「不定愁訴」岡 三沙子／「問題」サーカー和美／「ハンチング帽子」北村愛子／「優しさをたたむ」野村 俊／『袋小路の詩人』越川泰臣／「水骨」芳賀稔幸／「情熱のスペイン」水崎野里子　の14名14作品。発言者は10名、総発言数は52件に上りました。

日本詩人クラブ**例会・イベント**　2006年７月

2006 平成18年 ７月　例会　担当理事：北岡善寿
日時　７月８日(土)　14時00分～
場所　神楽坂エミール（教育会館）TEL 03(3260)3251
　　地下鉄東西線「神楽坂駅」下車　赤城神社隣
内容

会員による詩の朗読と小スピーチ

小野正和氏

昼間初美氏

松沢 桃氏

講演　日本詩人クラブ創設期の詩人たち　『堀口大学』

講師　山田　直氏

講演『ドイツ古典詩を語って詩の有りようを探る』

講師　相沢那織子氏

ゲーテ、シラー、ヘルダーリンの話を交えて、詩への思いを語る相沢氏と満員の聴衆

参加者は91名。お集まりいただき、ありがとうございました。

2006 平成18年 7月　研究会　担当理事：川中子義勝
日時　７月15日(土)　午後２時～５時
場所　神楽坂エミール（教育会館）TEL 03(3260)3251
　　地下鉄東西線「神楽坂駅」下車　赤城神社隣
内容　詩論研究「詩を離れて詩を思考する」－散文概念をめぐって－　講師：平出　隆／コーディネーター：川中子義勝
＊当日のパンフレットより

「詩の行為は、言葉そのものが疑われ否定されてゆく過程に立つ。そこで、ひとつの到着地を、到着するやたちまち切り崩すものとなる。行為はこうして、休みなく、終わりがない。」
「一つのテキストを、多方面から多方面へ通過していく、しかも相互に乗り入れ自由な文脈をつくりだすこと——多方通交路。」
「すべての表現形式はその周縁で曖昧である。言語の芸術においても、ここまでがこの形式の縄張り、ということはない。」
（平出　隆『多方通行蹄』より）

今回の現代詩研究会には、詩集『家の緑閃光』、評論『破船のゆくえ』、また散文『伊良子清白』など、多彩な活動をしてこられた平出隆氏を迎える。現実を打ち砕く行為としての批評と実作の結びつき、また「詩を離れて詩を思考する」ことなど、氏の活動の要点を、造形との関わりや伝統への視点など、近年の展開とあわせつつ語っていただく。コーディネーター：川中子義勝

講師：平出　隆氏

コーディネーター：川中子義勝氏

30名を超える人たちがプロジェクターに映されたゲルハルト・リヒターの絵を観ながら講演に聴き入りました。

日本詩人クラブ例会・イベント　2006年８月

2006 平成18年 ７月～８月　第13回　日本詩人クラブ詩書画展　担当理事：村山精二
日時　７月31日(月)～８月６日(日)　午前11：00～午後6：00　最終日は午後2：00まで
場所　地球堂ギャラリー　〒104－0061　東京都中央区銀座8－8－6　銀栄ビル2Ｆ　TEL 03－3572－4811
朗読会　８月５日(土)　午後3：00～4：30

出品者(65名)
秋元炯、安部加代、天彦五男、綾部健二、諫川正臣、伊藤雄一郎、今泉協子、磐城葦彦、植木肖太郎、卜部昭二、小川英晴、奥沢 拓、笠原三津子、勝野郁子、金子秀夫、川島　完、川中子義勝、菊田　守、菊地貞三、北岡淳子、雲嶋幸夫、くろこようこ、小池豊一、神品芳夫、琴天音、桜井さざえ、鈴切幸子、関 和郎、宗 美津子、高島清子、竹内美智代、田中眞由美、谷口ちかえ、常木みや子、中井ひさ子、中原道夫、中村洋子、中村不二夫、中谷俊、名古きよえ、南原充士、羽切美代子、長谷川　忍、花籠悌子、林 柚維、早藤 猛、原田道子、比留間一成、福田美鈴、船木倶子、保坂登志子、保高一夫、松山妙子、丸地　守、丸山勝久、水島美津江、三田洋、峰岸了子、深山鏡子、村山精二、森 常治、森田 進、柳田光紀、吉田義昭、渡辺めぐみ

８月５日朗読会スナップ

　連日40名を超える来場者を迎え、延べ340名を数えました。銀座中央通りに面しているという地の利もあり、フリーのお客さま、高名な美術批評家の訪れもあって盛会裏に終了することができました。ありがとうございました。

日本詩人クラブ**例会・イベント**　2006年９月

2006 平成18年 ９月　例会　担当理事：北岡善寿
日時　2006年９月９日（土）午後２時～５時
会湯　神楽坂エミール（教育会館）TEL 03(3260)3251
　　地下鉄東西線「神楽坂駅」下車　赤城神社隣
参加費　会員・会友　無料(一般500円)

１．会員による詩の朗読と小スピーチ

諫川正臣氏

禿 慶子氏

野澤俊雄氏

２．平成18年度名誉会員三氏について

『石川重俊氏について』…講師　石原　武氏

石川重俊氏

『上野菊江氏について』…講師　福田美鈴氏
＊上野菊江氏はご欠席

『高橋良雄氏について』…講師　西岡光秋氏

高橋良雄氏

92名の人が出席し、名誉会員のお話を伺いました。

2006 平成18年 9月　日本詩人クラブ現代詩研究会・栃木ゼミナール　担当理事：川中子義勝
日時　2006年９月２日（土）午後２時～５時
会湯　宇都宮青年会館　ホテル・コンセーレ
　　〒320-0066宇都宮市駒生1－1－6　TEL 028－621－1417
　　ＪＲ宇都宮駅西口より　関東バス作新経由駒生行き　東中丸停留所下車　徒歩１分
参加費　無料

講演「栃木の先達詩人・手塚武」野澤俊雄氏

講演「詩と音楽のかかわり」川中子義勝氏
－Ｊ・Ｓ・バッハから詩を考える－

栃木県内外から58名の人がご参加くださいました。

＜当日のパンフレットより＞
詩論研究「詩と音楽のかかわり」－バッハの音楽をてがかりに－
　バッハの音楽は日本人に大変好まれている。尾崎喜八をはじめ、バッハやその作品について綴った詩人も多い。高村光太郎の「フランデンブルク」がまず思い出される。多くの人はしかし、まだその器楽曲にしか馴染んでいないのではないだろうか。バッハはしばしば詩人たちとともにその作品を作ったが、バッハ自身が詩を深く読む人であった。そしてその読解の中から、多くの声楽作品が生まれてきた。その消息はあまり知られていない。これを具体的に紹介するとともに、バッハの音楽自体が、詩作を啓発する側面をもつことについて述べたい。
　ヘルマン・ヘッセの後期作品に『デーミアン』という小説がある。若きジンクレーアの魂の遍歴が語られていく。主人公はバッハの「哀悼式典」と題する曲に深く魅せられる。これは、カンタータ第106番「神の時こそいとよき時」のことである。まずこの曲を聴き、その言葉を読み解くことから始めたい。バッハに曲作りの豊かな素材を提供した、コラールというひとつの詩のジャンルか生まれて育つ、その消息にもふれたい。　発題　川中子義勝

☆申し込み方法　日本詩人クラブ事務局(北岡淳子)まで。または日本詩人クラブＥメール：zvc05352@nifty.com

川中子義勝（かわなご　よしかつ）プロフィール
1951年埼玉県生まれ。東京大学大学院人文科学研究科（独文）修了。東京大学教授。主に言葉の側面からバッハについての講義を重ねる。
著作として
2005年『遥かな掌の記憶』

2002年『北方の博士・ハーマン著作選』（他のハーマン関係の業績と併せて　アマーリエ・フォン・ガリツィン賞／ドイツ）
　　『ミンナと人形遣い』『ときの薫りに』
2000年『散策の小径』
1999年『ものみな声を』
1996年『北の博士・ハーマン』『ハーマンの思想と生涯』『ふゆごもり』
1995年『眩しい光』　ほか。
（ホームページ）http:www004.upp.so-net.ne.jp/kawanago/

日本詩人クラブ**例会・イベント**　2006年10月

2006 平成18年 10月　例会　担当理事：北岡善寿
日時　2006年10月14日(土)午後２時～
場所　神楽坂エミール（教育会館）TEL 03(3260)3251
　　地下鉄東西線「神楽坂駅」下車　赤城神社隣
参加費　会員・会友　無料(一般500円)
内容

１．会員による詩の朗読と小スピーチ

綾部健二氏

湯村倭文子氏

２．講演　日本詩人クラブ創設期の詩人たち「安部宙之介」について

講師：内藤健治氏

講師プロフィール

1941年栃木県生まれ。「騒」「クレドール」所属。

著書『銀座遊行』(句集)、『内藤健治詩集』など。

講演　植民地文学の狭間に生きる

講師：陳千武氏

講師プロフィール

1922年台湾生まれ。1943年台湾第四部隊に入隊。

台湾ペンクラブ会長。台湾省児童文学協会理事など歴任。

著書『陳千武詩集』（秋吉久紀夫訳・編）など。

会場風景。左手前後向きの女性は陳氏夫人。今回も盛会でした。ありがとうございました。

2006 平成18年 10月　オンライン現代詩作品研究会　担当理事：村山精二
日　時　10月７日(土)10：00～８日(日)18：00
登録者のみで日本詩人クラブメーリングリスト上で開催
提出作品：「調律師」蒼わたる／「バイオレンス」斎藤幸雄／「月」日紫喜友紀／「私は駄牛」水崎野里子／「My Answer」黒神真司／「大きな卵」佐藤 孝／「思い出　―精神科病棟」山中利子／「愛のエピタフ」小野正和／「しらが　の　テロリスト」くらもちさぶろう／「蚊よ」サーカー和美／「お墓の意思表明」北村愛子／「チェルカ」芳賀稔幸／「雪やこんこ」琴 天音／「息子イサクへ」岡 三沙子
の14名14作品。発言者は16名、総発言数は75件に上りました。ＭＬの不調から開始が遅れ、終了を８時間延長しました。

日本詩人クラブ**例会・イベント**　2006年11月

2006 平成18年 11月　例会　担当理事：北岡善寿
日時　2006年11月11日(土)午後２時～
場所　神楽坂エミール（教育会館）TEL 03(3260)3251
　　地下鉄東西線「神楽坂駅」下車　赤城神社隣
内容

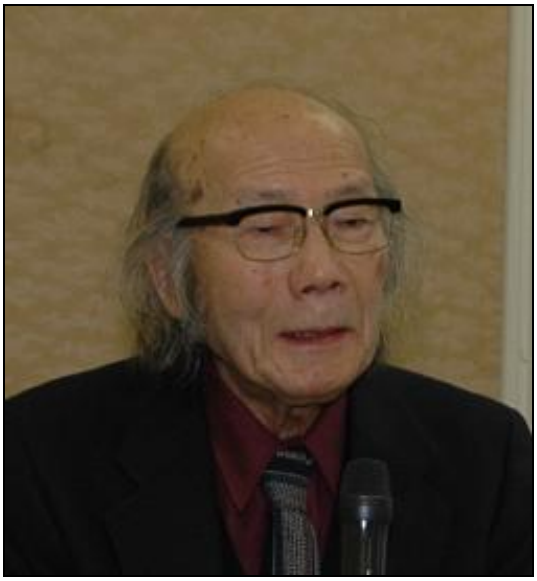
会員による詩の朗読と小スピーチ

秋田芳子氏

秋山公哉氏

花籠悌子

講演　日本詩人クラブ創設期の詩人たち「野田宇太郎」



講師：上田周二氏

講師プロフィール　1926年東京生まれ。「時間と空間」所属。

著書『闇・女』(小説集)、詩集『華甲からの出発、又は――』など。

講演「ロルカ詩集『ニューヨークの詩人』をめぐって」

講師：鼓 直氏
講師プロフィール　1930年岡山市生まれ。法政大学名誉教授。
著書『ラテンアメリカの小説世界』。
訳書『白』(オクタピオ・パス)、
「百年の孤独』(ガルシア・マルケス)など。

雨にも関わらず大勢の人においでいただきました。ありがとうございました。

2006 平成18年 11月　横浜詩人会共催　地域会場現代詩研究会　担当理事：川中子義勝
日時　2006年11月４日(土)午後２時～５時
場所　エルプラザ（かながわ労働プラザ）19Ｆ　横浜市中区寿町1-4
　　ＪＲ根岸線「石川町駅」北口(横浜駅寄り)下車　徒歩３分
参加費　無料
内容　「エルヴィス／詩／場所(トポス)」
　　対談：中上哲夫×水野るり子　　コーディネーター：川中子義勝

＜当日のパンフレットより＞
　詩とは、なにか？　詩はいかにあるべきか？　――詩を書いているかぎり、この問いから自由になれる者はいないだろう。
　ファンタジックな詩を書いてきた水野るり子と、ビートニックな詩を書いてきた中上哲夫の二人が、ともにエルヴィス・プレスリー・ファンということで、エルヴィスの話を枕に、日頃詩について考えていること、日頃疑問に思っていることなどを、胸襟をひらいてざっくばらんに語り合う。具体的に。
　さらに、二人の話は場所(トポス)をめぐって展開される予定だが、場所(トポス)に関しては二人の関心は微妙にずれるかもしれない。というのも、中上哲夫の関心は具体的な場所――住む場所、すなわち、どこにだれと住むかなど――にウェイトがあるのに対して、水野るり子の関心は文学的な場所――詩を書く場所、詩の舞台となる場所など――にウェイトがあるようなので、二人の関心がどう交差するか、楽しみである。（中上哲夫）

プロフィール(自己紹介)
中上　哲夫（なかがみ　てつお）
　1939年、大阪に生まれ、東京、福岡、横浜、新潟、千葉などに住んだ。血液型Ｂ型、魚座。趣味は釣りとバードウォッチング。俳号ズボン堂。
〈詩集〉『スウェーデン美人の金髪が緑色になる理由』（横浜詩人会賞）、『エルヴィスが死んだ日の夜』（高見順賞・丸山豊記念現代詩賞）など、９冊。
〈編著〉『春・夏・秋・冬、ふしぎ、ふしぎ』
〈翻訳書〉ジャック・ケルアック『荒涼天使たち』『孤独な旅人』『パリの悟り』、リチャード・ブローティガン詩集『突然訪れた天使の日』、チャールズ・ブコウスキー詩集『モノマネ鳥よ、おれの幸運を願え』など、12冊。
水野　るり子（みずの　るりこ）
〈略歴〉東京(大森)に生まれる。都内各地を転居後、埼玉に暮らし、20年前から横浜市に住む。東京大学仏文科卒。魚座、Ｂ型。
〈主な仕事〉詩、エッセイ、作詞、童話、台本、翻訳など。
〈近況〉1989年より「たこぶね読書会」を、横浜で月１回開催。ファンタジー作品、童話、文学作品などを中心に読んでいる。
〈所属〉現代詩人会、日本ペンクラブ、横浜詩人会。
〈詩話〉1984年より詩話「ペッパーランド」発行。（現在32号）　別冊として『夢送り』の試みなどがある。長篇詩話「ヒポカンパス」（06年11月終刊）同人。
〈詩集〉『動物図鑑』1977年、『ヘンゼルとグレーテルの島』(Ｈ氏賞）1983年、『ラプンツェルの馬』1987年、『はしばみ色の目のいもうと』1999年、『クジラの耳かき』2003年、『うさぎじるしの夜』ＣＤ－ＲＯＭ詩集　2003年
〈訳〉詩集『人生よ　ありがとう』<ビオレッタ・パラ著>1987年、絵本『いたずらかいじゅうトアトア』シリーズ
〈編著〉『母を語る二十三人の娘たち』1991年、『母系の女たちへ』1992年

ご報告／川中子義勝
　二月四日横浜市石川町のエルプラザを会場に、現代詩研究会（近隣地域研究会として今年度

は、千葉、栃木に次ぎ三回目）が催されました。詩関係のいくつかの行事の重なる日でしたが、七〇名ほどの聴衆が集まり盛況でした。中上哲夫さんと水野るり子さんの対談形式。共通の関心としてエルヴィス・プレスリーを枕に詩の本質について、また詩の主題としての場所、あるいはその生まれくる場所について、密度の濃い話を伺いました。対談後にも、熱のこもった質疑応答の時が持たれました。

日本詩人クラブ**例会・イベント**　2006年12月

2006 平成18年12月（中）日本詩人クラブ法人化記念国際交流の集い 担当理事：石原武、鈴木敏幸
日時　2006年12月9日（土）受付開始　12時～　開会　12時30分　閉会　16時30分
場所　サンシャイン60ビル59階　藤・菖蒲・桔梗の間
　　〒170-8448　豊島区東池袋3-1-5　電話 03-3988-1111
内容
（１）第１部　講演
講師　沈奇(ちんき)氏　　中国西安市在住（「先駆」から「常態」まで－中国大陸先駆的詩歌20年の省察と予想－）
講師　楊克(ようこく)氏　中国広州市在住（中国詩歌の状況－『中国新詩年鑑』を例証として分析する－）

左から　張広氏(通訳)　楊克氏　沈奇氏　王婷婷氏(通訳)　の皆さま

通訳及び解説　佐々木久春氏（秋田大学名誉教授）

悠久の大地と、古くから詩文学を重んじてきたアジアの隣国、中国から、現在世界的に活躍中のお二人の詩人をお招きして、国際交流の集いを開催いたしました。中国現代詩の状況は、日本の詩人たちにまだ広く知られていないのが実情と思われます。そこで、（中）日本詩人クラブ法人化記念事業として、この現代中国の詩の状況を学び、親しく交流を深める機会となりました。

（２）第２部　懇親パーティ
サンシャイン60ビル59階　櫻の間（14時30分～16時30分）＊講演会場に隣接

チェロ演奏の山本護氏と楊克氏の詩朗読

中国からのお客さま、来賓の詩人を囲んで

100名を超える皆さまにご参加いただき、日本詩人クラブ法人化記念国際交流の集いを盛大に行うことができました。ありがとうございました。